

資料リスト

資料 1: 質問紙Ⅰ「不妊治療後の妊産婦への助産日常ケア質問紙」

資料 2: 質問紙Ⅱ「不妊治療後の妊産婦事例への対応質問紙」

資料 3: 質問紙Ⅲ「不妊治療に関する知識」

資料 4: 質問紙Ⅳ「改訂道徳的感受性質問紙日本語版(J-MSQ)」

資料 5: 質問紙Ⅴ「助産師の背景と勤務施設の体制」

資料 6: 研究協力依頼書（施設看護管理者用）

資料 7: 研究協力説明書（研究対象者助産師用）

資料 8: 返信用はがき

調査用紙

この調査用紙は、次の5種類の質問紙から構成しています。

- I 不妊治療を経験した妊産婦への日常ケア
- II 不妊治療を経験した妊産婦事例への対応
- III 不妊治療に関する知識
- IV 倫理的感受性尺度
- V あなた自身のプロフィール

* 調査への回答に要する時間は、12～15分です。

2回目の回答と関連づけて分析するための記号をご記入ください

あなたの誕生日とイニシャル

●例 10月3日の鈴木さん → 1003S

--	--	--	--	--

回答した月日をご記入ください。

平成29年 月 日

調査用紙

* 調査への回答に要する時間は、およそ10分です。

1回目の回答と関連づけて分析するための記号をご記入ください。

あなたの誕生日とイニシャル

●例 10月3日の鈴木さん → 1003S

--	--	--	--	--

回答した月日をご記入ください。

平成29年 月 日

- I 次の文章は「不妊治療を経験した妊産婦に対する倫理的実践」についての項目です。
 あなたの日々の実践の頻度に最も当てはまるものの番号に○をつけてください。
 現在担当していないものは、過去の実践についてお答えください。

質問項目		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
1	不妊治療は今回の妊娠までの背景の一つとして聞く	4	3	2	1
2	妊産婦の不妊治療の経過を理解する	4	3	2	1
3	妊産婦が不妊治療を選択した過程を理解する	4	3	2	1
4	妊産婦が不妊の情報についてどのように扱ってほしいかを確認する	4	3	2	1
5	妊産婦自身の治療経験のとらえ方を知る	4	3	2	1
6	妊産婦に対して不妊に関する話を掘り下げて聞かない	4	3	2	1
7	不妊治療の実際を知らないため妊産婦の経験を理解できない	4	3	2	1
8	不妊治療中から継続的に関わりを持つ	4	3	2	1
9	不妊治療中に面識がない場合は妊娠後初対面で、まず関係づくりのきっかけを作る	4	3	2	1
10	継続的な関わりの中で不妊に関して話ができる関係を築く	4	3	2	1
11	妊産婦との関係が浅い場合は反応を見ながら慎重に関わる	4	3	2	1
12	不妊治療の知識を活用して妊産婦と積極的に対話を試みる	4	3	2	1
13	妊産婦への関心をもっていることを示して不妊に関して問いかける	4	3	2	1
14	不妊に関してわからないことは教えてほしいという姿勢を示して問いかける	4	3	2	1
15	周囲の患者への不妊に関する情報漏えいに留意する	4	3	2	1
16	不妊治療の知識がないため共感できない	4	3	2	1
17	不妊という枠組からではなく個人を見る	4	3	2	1
18	妊産婦の今回の妊娠への思いを聞き、不妊治療へのとらえ方を知る	4	3	2	1
19	何か違うと感じる様子がある時は意図的に妊産婦に接近する	4	3	2	1
20	不妊治療に関する妊産婦の気持ちを引き出すため誘導的な質問をする	4	3	2	1
21	妊産婦のネガティブな発言を否定しないで受け止める	4	3	2	1
22	不妊治療に対して否定的な感情をもった状態で妊産婦に関わる	4	3	2	1
23	担当部署でプライマリナースとして関わる	4	3	2	1
24	妊娠中に不妊治療の経験を振り返るタイミングがあれば共有する	4	3	2	1
25	妊娠への適応状態を見ながら出産育児準備への介入の必要性を検討する	4	3	2	1

質問項目		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
26	妊産婦の不妊治療への思いを汲み取りながら出産をねぎらう	4	3	2	1
27	出産後に不妊治療から分娩までの過程を振り返る妊産婦を見守る	4	3	2	1
28	出産後入院中に母親として進む気持ちが整理できているかを見守る	4	3	2	1
29	考え方・不安の変化が見られた時には、個別のケアを検討するサインとしてとらえる	4	3	2	1
30	不妊治療中に辛い経験がある対象は、妊娠以降に注意深く見守る	4	3	2	1
31	妊産婦が必要とした時には妊娠後にも不妊に関して話をする機会を持つ	4	3	2	1
32	周産期の経過と不妊治療との関連の有無を説明し理解を促す	4	3	2	1
33	不妊治療後も自然妊娠と同様の家族計画指導を行う	4	3	2	1
34	次の妊娠の計画を相談しながら母乳育児の進め方を検討する	4	3	2	1
35	出産後長期に亘って不妊治療に関連した対話ができる場を紹介する	4	3	2	1

Ⅱ

以下の対象と関わった経験がある方は、＜ケース例＞と類似した場面をイメージして設問にお答えください。

- 1-1) 育児行動をとりにくい妊産婦に対応した経験がありますか。(あり なし)

「あり」の方は 1-2)へ ↓

- 1-2) 以下のケース例への対応について当てはまるものに○をつけてください。

＜ケース例＞

不妊治療を受けて妊娠した初産婦が正常出産しました。出産直後に児と対面した時に無表情で児への反応は見られませんでした。その後、母の体調に合わせて育児への取り組みを促し始めましたが、笑顔がなく児との関わりを拒む様子が見られました。

		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
1	先輩や同僚にケアの交代を依頼する	4	3	2	1
2	心情を話したいときに話せるような雰囲気を作る	4	3	2	1
3	わだかまりになっていることが何かあるかに注目して話を聞く	4	3	2	1
4	心理に関連した職種(カウンセラー、リエゾンナース、精神科医など)との連携を取りながら関わる必要があるかを検討する	4	3	2	1

- 2-1) 減数手術を受けた妊産婦へのケア経験がありますか。(あり なし わからない)

「あり」の方は 2-2)へ ↓

- 2-2) 以下のケース例への対応について当てはまるものに○をつけてください。

＜ケース例＞

出産のため入院してきた産婦について、カルテから情報収集をしました。不妊治療を受けて双胎を妊娠しましたが、単胎を希望して減数手術を受けていました。

		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
1	なるべく関わりを最小限にする	4	3	2	1
2	産婦を受け入れることができず素っ気なく接する	4	3	2	1
3	心情を話したいときには話せるような雰囲気を作る	4	3	2	1
4	バースレビューで不妊治療を含めた振り返りを試みる	4	3	2	1

- 3-1) 卵子提供を受けて妊娠した妊産婦へのケア経験がありますか。(あり なし わからない)

「あり」の方は 3-2)へ ↓

- 3-2) 以下のケース例への対応について当てはまるものに○をつけてください。

＜ケース例＞

高年齢の産婦が出産のため入院してきました。カルテには記載されていませんでしたが、海外で卵子提供を受けていることを話し始めました。

		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
1	なるべく関わりを最小限にする	4	3	2	1
2	今回の妊娠への思いを話せる雰囲気を作る	4	3	2	1
3	出産にあたって望んでいることを聞き受け止める	4	3	2	1
4	対象がこれまで選択してきたことを肯定する意思を表す	4	3	2	1

- 4-1) 精子提供を受けて妊娠した妊産婦へのケア経験がありますか。(あり なし わからない)

「あり」の方は 4-2)へ ↓

- 4-2) 以下のケース例への対応について当てはまるものに○をつけてください。

<ケース例>

精子提供を受けた産婦が出産のため入院してきました。入院時の問診では、緊張している様子が見られました。

		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
1	なるべく関わりを最小限にする	4	3	2	1
2	今回の妊娠への思いを話せる雰囲気を作る	4	3	2	1
3	出産にあたって望んでいることを聞き受け止める	4	3	2	1
4	対象がこれまで選択してきたことを肯定する意思を表す	4	3	2	1

- 5-1) 児への不妊治療の告知の是非に関する相談をされたことがありますか。(あり なし)

「あり」の方は 5-2)へ ↓

- 5-2) 以下のケース例への対応について当てはまるものに○をつけてください。

<ケース例>

妊婦に体外受精の妊娠だったことを生まれた子どもに告知するべきでしょうかと相談を受けました。また、あなたならどうしますかと質問されました。

		いつも 実施する	時々 実施する	あまり 実施しない	まったく 実施しない
1	それとなく話をそらす	4	3	2	1
2	選択に当たって迷っている気持ちについて話を聞く	4	3	2	1
3	専門職である自分の考えは敢えて言わない	4	3	2	1
4	対象が選択したことについて肯定する意思を表す	4	3	2	1

不妊治療を経験した妊産婦への倫理的な実践の視点で、お気づきの点がありましたらご記入ください。

Ⅲ 不妊治療に関する以下の文章について、正しいものには○、誤っているものには×をつけてください。

()	1	日本産科婦人科学会の定義では、不妊症とは妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず、一定期間妊娠しないものをいい、その一定期間とは2年とされている
()	2	40～44歳の女性の流産率は40%を超える
()	3	人工授精の妊娠率は30%といわれている。
()	4	排卵誘発剤の副作用である卵巢過剰刺激症候群は妊娠後に症状が増悪する
()	5	体外受精後の妊娠では1個胚移植であっても、自然妊娠と比較して一卵性双胎の発生率が高い
()	6	体外受精の不成功の経験があると流産への不安が強くなりやすい
()	7	どのような不妊治療を受けた妊婦でも自然妊娠の妊婦よりも胎児に対する不安が強い
()	8	妊娠した後も自分が不妊であるという意識を持ち続けることがある
()	9	周産期に問題がおこると不妊治療そのものを否定的にとらえる場合がある
()	10	卵子提供を受けた人は治療をしたことへの悩みを抱くことがある

- Ⅳ 次の質問は、看護実践の倫理的感受性を表しています。
「強くそう思う」から「全くそう思わない」の間で、当てはまる番号に○をつけてください。

	質問内容	強く そう 思う					全く そう 思わ ない
1	たとえ人手や資源が不十分であっても、患者が良いケアを受けることについて、私はいつも責任を感じている	6	5	4	3	2	1
2	私は患者の思いをキャッチしてよく気づけるほうなので、それがいつも自分の仕事に役立っている	6	5	4	3	2	1
3	私はその場の様子から、難しいことや話にくいことを患者にどういったらいいかをとてもよく感じ取れる	6	5	4	3	2	1
4	患者の思いに気づくことは、もっとそれ以上のことをしていく始まりだと思う	6	5	4	3	2	1
5	患者がよいケアを受けていないと気づく能力が、私はとても高いと思う	6	5	4	3	2	1
6	患者が苦しんでいるとき、自分の感情のコントロールがとても難しく感じる	6	5	4	3	2	1
7	患者をケアするとき、患者によいことをもたらすことと、害を与える可能性とのバランスを私はいつも考えている	6	5	4	3	2	1
8	患者の思いに気づけることは、状況の不十分さに気づくことでもあると、よく思う	6	5	4	3	2	1
9	患者にとって良いことや良くないことを判断するときは、病棟等の決まりや規則を重要視することが大事だと思う	6	5	4	3	2	1

出典：前田樹海、小西恵美子(2012).
改訂道徳的感受性質問紙日本語版（J-MSQ）の開発と検証：第1報、
日本看護倫理学会誌，4(1)，32-37.

V あなた自身についてお伺いします

- 1) 助産師の臨床経験年数は通算何年ですか。(看護師経験は含まない)
- (年 カ月)
- 2) これまでに助産師として臨床経験がある部署(部門)の番号すべてに○をつけ、その他があればご記入ください。
1. 妊婦外来 2. 妊婦(病棟) 3. 分娩室 4. 褥室 5. 婦人科(外来)
6. 婦人科(病棟) 7. 不妊治療部門 8. その他()
- 3) 看護師の臨床経験年数は通算何年ですか(助産師経験は含まない)。
- (年 カ月)
- 4) 看護師としての臨床経験のある部署(部門)の番号すべてに○をつけ、その他があればご記入ください。
1. 産科(病棟) 2. 産科(外来) 3. 婦人科(病棟) 4. 婦人科(外来)
5. 不妊治療部門 6. その他()
- 5) 現在の勤務部署(部門)の番号すべてに○をつけ、その他があればご記入ください。
1. 妊婦外来 2. 妊婦(病棟) 3. 分娩室 4. 褥室 5. 婦人科(外来)
6. 婦人科(病棟) 7. 不妊治療部門 8. その他()
- 6) 現在の勤務施設の診療範囲に当てはまるものの番号に○をつけてください。
1. 周産期・一般不妊治療 2. 周産期・生殖補助医療(ART)・一般不妊治療
3. 周産期 (不妊治療の取扱い無) 4. その他
- 7) 不妊治療後の妊産婦へのケアはどれくらいの頻度で行っていますか。最近1年で当てはまるものの番号に○をつけてください。
1. 2人以上／週 2. 1人／週 3. 1人／2～3週 4. 1人以下／1か月

* 裏面が最後のページです⇒

- 8) 不妊治療後の妊産婦へのケアを行う部署(部門)の番号すべてに○をつけ、その他があればご記入ください。

1. 妊婦外来

2. 病棟(妊婦)

3. 分娩室

4. 褥室

5. その他(

- 9) 不妊治療後の妊産婦へのケアに関する教育の有無について当てはまるものの番号に○をつけてください。

a. 勤務施設内で不妊治療後の妊産婦事例を共有するカンファレンス

1. あり

2. なし

b. 勤務施設内で不妊に関して相談できる人材や窓口

1. あり

2. なし

c. 勤務施設内の研修会への参加

1. あり

2. なし

d. 勤務施設外の研修会への参加

1. あり

2. なし

e. 助産師基礎教育で不妊治療後の妊産婦へのケアについて学習した経験

1. あり

2. なし

- 10) 不妊に関連する認定資格について取得しているものの番号すべてに○をつけ、その他があればご記入ください。

1. 不妊症看護認定看護師

2. 不妊コーディネーター

3. 不妊カウンセラー

4. その他

5. なし

- 11) 助産師国家試験受験資格を得た教育機関の番号に○をつけてください。

1. 專門学校

2. 短大専攻科

3. 4年制大学

4. 4年制大学専攻科

5. 4年生大学別科

6. 大学院(2年制)

7. 專門職大学院

8. その他()

- 12) あなた自身が不妊治療を受けた経験はありますか。

1. あり

2. なし

↓

* よろしければ受けた治療について教えてください。

1. 一般不妊治療

2. 生殖補助医療(ART)

3. その他()

ご協力ありがとうございました

平成 29 年〇月 日

看護管理者 様

研究ご協力のお願い

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

突然お便りいたしまして、ご無礼をお許してください。この度、インターネットにて分娩を取り扱う病院という視点で探索し、お便りいたしました。

私は、聖路加国際大学大学院博士課程に在学しております青柳 優子と申します。

現在、不妊治療後の妊産婦を対象とした助産師の倫理的実践と関連要因を明らかにする研究に取り組んでおります。この結果により助産師への教育の必要性や方法を検討し、不妊治療を経験した女性が母親となる過程を、妊娠期から出産後に亘って支援するための助産ケア実践力の向上に役立てたいと考えています。

ご多忙中大変恐縮ですが、研究へのご理解をいただき、調査のご協力を賜りたくよろしくお願いいたします。

<研究の概要>

1. 研究対象：不妊治療後の産婦の周産期ケアを行っている、勤務経験 2 年目以上の助産師

＊貴院において、分娩の取り扱いや助産師の配属がない場合は研究対象外となります。

お手数ですがその旨をお知らせ頂きたくお願い申し上げます。

2. 研究方法：郵送での質問紙調査（計 2 回）

＊質問紙の質の確認のため 1 か月の間隔を空けて 2 回の回答をお願いいたします。

回答は無記名ですが、2 回の回答を結合させて分析するため、2 回とも同様に記号欄への記載をお願いいたします。

回答に要する時間は 1 回目 12～15 分、2 回目約 10 分です。

研究に協力することでの直接の利益はありません。

3. 質問紙の内容

I 不妊治療を経験した妊産婦への日常ケア

II 不妊治療を経験した妊産婦事例への対応

III 不妊治療に関する知識（1 回のみ）

IV 倫理的感受性尺度（1 回のみ）

V 助産師のプロフィール（1 回のみ）

＊質問紙および説明書は一部ずつ同封しておりますので、ご確認をお願いいたします。

4. ご依頼内容

- (1) **研究協力可否のお返事**：資料をご覧の上、研究へのご協力を検討していただき、同封のはがきにて研究参加の可否、調査の担当者様の連絡先、質問紙にお答え頂ける助産師の人数等、必要事項をご記入の後、平成 29 年〇月〇日 () までにご投函ください。
- (2) **質問紙の配布**：研究に協力していただける場合には、ご連絡いただきました人数分の助産師用質問紙と説明書、返信用封筒を 2 回郵送いたします。
2 回目の調査は質問紙と粗品をお送りします。
助産師の皆様への配布をお願いいたします。
- (3) **質問紙の回収**：助産師の皆様は質問紙にご記入いただいた後、2 回とも各自で返信用封筒に封入し、郵送にて返信をお願いいたします。
返送期限は、質問紙到着後 3 週間程度でお願いしたいと存じます。
質問紙の返送をもって、各助産師の方より研究へのご協力の同意が得られたものとさせていただきます。

5. 倫理的配慮

貴施設の研究協力の如何によって不利益を被ることがないことを保証いたします。返信用はがきに個人情報保護シールを貼付していただき、情報流出を防ぎます。助産師による質問紙への回答は無記名であり、個人が特定されません。調査データは研究者が責任を持って厳重に管理します。調査結果は学会発表及び学術論文として公表する予定ですが、その際、施設名の匿名性を厳守します。ご記入いただいた質問紙および電子データは研究結果公表後 3 年以上保管したのちすべて廃棄します。

尚、この研究計画は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得ています。

(承認番号：〇〇-〇〇)

<連絡先>

【研究者】 青柳 優子 〇〇大学

電話 〇〇-〇〇-〇〇 (直通)

03-〇〇-〇〇〇 (森研究室)

E-mail : 〇〇〇〇@slcn.ac.jp

【研究指導者】 森 明子

(聖路加国際大学大学院看護学研究科ウイメンズヘルス・助産学教授)

本研究は、平成 28～30 年度文部科学省科学研究費 挑戦的萌芽研究「不妊治療後の妊産婦に対する助産ケア評価尺度の開発」の一部として補助を受けています。

平成 29 年 月 日

助産師の皆様へ

1. 調査協力をお願い

私は現在、聖路加国際大学大学院博士課程に在学しております青柳 優子と申します。

不妊治療技術が進歩し、不妊治療によって妊娠出産する女性が増加し続けている中で、個別の支援の必要性が取り上げられています。周産期に関わる助産師は、不妊に関連した倫理的問題が起こりうることや不妊治療に関する知識の不足により、ケアの難しさを抱く場合があると明らかにされてきました。

そこで今回、不妊治療後の妊産婦のニーズに応じた助産師のケア実践（倫理実践）状況と要因との関連を知るため調査を行うことにしました。この結果から、助産師への教育の必要性や方法を検討し、不妊治療を経験した女性が母親となる過程を妊娠期から出産後に亘って支援する助産ケア実践力の向上に役立てたいと考えています。

是非、質問紙へのご記入をお願いいたします。

2. 調査の方法

(1) 質問紙への回答をお願いいたします。

＊質問紙の質の確認のため1か月の間隔を空けて2回の回答をお願いいたします。

回答に要する時間は1回目 12～15 分、2 回目約 10 分です。

回答は無記名ですが、2 回の回答を結合させて分析するため、2 回とも同様に記号欄への記載をお願いいたします。

研究に協力することでの直接の利益はありません。

(2) 質問紙は 5 種類です。

I 不妊治療を経験した妊産婦への日常ケア

II 不妊治療を経験した妊産婦事例への対応

III 不妊治療に関する知識（1 回のみ）

IV 倫理的感受性尺度（1 回のみ）

V あなたのプロフィール（1 回のみ）（結果の分析のために活用します。）

(3) 各自が返信用封筒に入れ、平成 29 年〇月〇日までにご投函ください。

2 回目の調査は、質問紙と粗品を 3 週間後に管理者に郵送し、1 回目の質問紙を受け取られた方全員に配布していただきます。1 回目に回答されなかった場合は、2 回目の回答は必要ありません。

3. 倫理的配慮

- ・皆様に質問紙の記入を依頼することは管理者から了承を得ておりますが、回答するかどうかは皆さんの自由です。
- ・質問紙への記入は無記名であり個別の返送としているため、誰が回答したかは管理者も研究者にもわかりません。したがって、調査協力の可否によって不利益を被ることはありません。
- ・調査データは研究者が責任を持って厳重に保管します。
- ・研究結果は学会あるいは研究論文として発表する予定ですが、その際施設名も匿名性を厳守します。
- ・ご記入いただいた質問紙および電子データは研究結果公表後 3 年以上保管したのち研究者がすべて廃棄します。
- ・質問紙の返信をもって、研究へのご協力の同意が得られたものとさせていただきます。

尚、この研究計画は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得ております。

(承認番号：16-A078)

研究についてご質問がありましたら、いつでも下記へお問い合わせください。

<連絡先>

[研究者] 青柳 優子 ○○大学

電話 ○○-○○-○○○ (直通)

03-○○-○○○ (森研究室)

E-mail : ○○○○@slcn.ac.jp

[研究指導者] 森 明子

聖路加国際大学大学院看護学研究科ウイメンズヘルス・助産学教授

本研究は、平成 28～30 年度文部科学省科学研究費 挑戦的萌芽研究「不妊治療後の妊産婦に対する助産ケア評価尺度の開発」の一部として補助を受けています。

返信用はがき

貴病院名

研究ご担当者のお名前

電話番号 または メールアドレス

回答

研究に

1. 協力します。
質問紙にご記入いただける可能性のある
助産師の人数

_____人

2. 協力しません。

- i 分娩の取り扱いがないため
- ii 助産師の配属がないため
- iii その他

ご記入ありがとうございました。

平成 29 年〇月〇日（〇）までにご投函下さいます様お願い
いたします。